福祉まつり
ゆいっこ広場 in 東山

ふれあいネットワーク
いちのせき
社協だより
第21号
（2011年12月15日発行）

「悠久の流れに歴史とロマンが息づくまちづくり」をテーマに、10月16日(日)福祉まつり「ゆいっこ広場 in 東山」が東山地域交流センターを会場に開催されました。市内及び近隣から530人が参加し、終始賑わいを見せておりました。

多くの方々の参加協力によりおかげさまで盛会裏に終了することができました。

①地域活動・展示コーナーでは東山ユネスコ協会、日赤奉仕団、ワークハウス「雲」の活動状況を、又、消防署の協力により自然災害の怖さをビデオで紹介。防災の大切さを改めて知るきっかけとなったようです。地場産品の紫雲石硯や東山和紙も展示いただきました。

②多目的ホールにおけるイベントはげいび大獅子太鼓を皮切りに、幼稚園児等のお遊戯、おいとこ、げいび追分の伝統芸能、よさこいげいび藤美連等の芸を披露いただきました。

③一関歯科医師会による「むしば相談」コーナーや福祉団体等による出店コーナーは特ににぎわいを見せていました。

④東北砕石工場と宮澤賢治の関わりはつとに有名ですが、その賢治の世界を版画で紹介。自然と動物と人間がとけ合ったやすらぎの世界は鑑賞者をなごませました。

ご来場の方々に、東山町の福祉活動を知っていただく良い機会となったようです。

この広報は共同募金の助成により発行しております。

支部通信

一関支部

二十年の鍵は有償ボランティア

「菜の花ふれあいの会」は、会員どうしが相互支援活動を行っている団体です。

高齢者を地域で支え合おうとして二十年前に結成され、活発な活動を展開しています。身体の自由がきかない時に、掃除、洗濯、食事のしたく、庭の草取り等のほか話し相手になったりしています。

これらの有効性を高めるため毎月一回理事会を開催し、会の運営について話合いを積み重ねているほか、会員の学習会を行っています。

支援を受けたい方も支援したい方も登録をすれば簡単に会員になれます。現在の会員数は百十三人です。

高齢化が急速に進行し、この傾向は当分の間続くと見込まれておりますが、高齢化が進むほど〝地域の手〟が必要となってまいります。

高齢化に加えて、独り暮らしや高齢者のみの世帯も増え続けています。このことはちょっと周りを見渡してみれば実感することと思います。

三月十一日と四月七日の大震災は否応もなく日常生活を振り返らせ、又、何が必要かを考えさせることとなりました。

孤立化が進む中で、今求められているもののひとつに「ゆるやかなつながり」を挙げることができるでしょう。

介護保険制度に係る施設整備も一方では進められておりますが、多くの高齢者は元気で、今すぐ介護等のサービスを受けなければならない割合は案外低いのです。（介護認定者は二十％弱）

できる範囲で地域活動を実践することが今後一層求められてくると思います。

お問い合わせ先

一関市総合福祉センター内
菜の花ふれあいの会
（TEL 二三―七〇八七）

花泉支部

キャップハンディ体験

十一月十四日花泉小学校でキャップハンディ体験を行いました。花泉支部では毎年この時期に、総合的な学習の時間に福祉をテーマに学習する小学校へ赴き、体験教室を開いています。

「キャップハンディ」とは「ハンディキャップ」という言葉の前後を入れ替えた造語で、「立場を入れ替えて考えてほしい」という願いがこめられています。

今回は同校四年生二十三名が、ペアになり、体育館にマットやコーン、ブロックで作った障害物の上を車椅子で移動、旋回する体験。アイマスクをしてまったく見えない状況で、手引き者の誘導により廊下、階段等を歩行する体験。白内障メガネをして、字を書いたり、コップに水を注いでみる体験をしました。

児童達は初めての体験に悪戦苦闘していましたが、ペアの子を思いやる優しい姿が印象に残りました。この体験を通じて、障がいのある人が大変だとわかるだけでなく、どのようにしたら自分達と同じように暮らすことができるかを考えるキッカケになればと、願っております。

大東支部

陸前高田市へ炊き出し

～飯田市との共同奉仕～

一関市大東町赤十字奉仕団（増沢純委員長）と長野県飯田市赤十字奉仕団（堀口美鈴委員長）により、十月十三日と十四日の二日間、陸前高田市内三ヶ所の仮設住宅団地で炊き出しが行われました。

大東町から十九人、飯田市から二十四人が参加。初日は昼に第一中学校、夕方にサンビレッジ高田。二日目は米崎小学校にて、計約八〇〇食分の豚汁と五平餅が振る舞われました。

五平餅は、わらじ形の餅にクルミを入れた甘みそを付けて串焼きにする長野県の代表的な郷土料理。奉仕団はその場で調理し、出来たての味を提供。次々と集まった住民は「おいしい」と本場の味に感激、笑顔を見せていました。

増沢委員長は「食事の提供だけでなく、一人住まいの方々にとって交流の機会となり、喜んでもらえた。

そして今回、他県の奉仕団と一緒に活動する中で、遠方に居ながら被災地のことを常に気に掛けてくれているのを感じた。本当にありがたい。」と、二日間の成果を実感。堀口委員長は、「五平餅はお土産にも人気の名物。おいしいものを食べて和んでもらい、復興に向け無理せず頑張ってほしい。」と応援していました。

また、大東町赤十字奉仕団はこの経験を活かし、十一月六日に同市の高田高校仮設住宅で炊き出しを実施。今後も出来る限りの奉仕活動を行っていくとのことでした。

千厩支部

一人暮らし高齢者懇談会が開かれました

この懇談会は、千厩地域では今年で二十七回目となり年に一度の小旅行を兼ねた楽しい恒例行事として定着しています。

千厩地域には、現在六十五歳以上の高齢者約三二〇名の方が、一人暮らしをされています。日課のように仲間とゲートボールを楽しんでいる方、自宅で趣味活動を楽しんでいる方、病気のため静養を余儀なくされている方、通院しなければならない方もいます。農業に商業にそしてお勤めにと現役で働いている方もいます。

そんな日々の生活からチョット抜け出して、稲刈りが一段落した行楽日和の十月、千厩、小梨、奥玉、磐清水の四地区毎に温泉へと出かけてきました。

千厩地区（葉月会）は、祭畤温泉「かみくら」を会場に開催しました。奥玉地区（むつみ会）は、「瑞泉閣」が会場です。所々に岩手・宮城内陸地震のつめ痕が未だに残るその景色に心を痛める参加者も。小梨地区（和光会）と磐清水地区（もみじ会）は、合同で「かんぽの宿」を会場に開催しました。この二地区の懇談会では、研修として西消防署から講師を招き火災予防や非常時の備え等についての講話を聞きました。

今年の参加者は一二〇名で、お世話に当たった民生委員や地区福祉活動推進協議会の役員等です。来年もぜひご参加をいただければと思います。

東山支部

心のこもった手料理に舌鼓
～ひとり暮らし高齢者の集い～

十一月十五日東山地域交流センターにおいて、今年度二回目のひとり暮らし高齢者の集いを公民館の中央婦人学級と合同で開催しました。

今回は二十一名の参加で、人形劇サークル「つくしんぼ」の人形劇から始まり、げいび幼稚園、長坂保育園のお遊戯の披露、東北電力の「ひとりぐらし　電気の安全な使い方」についての講話を聴きました。

その後、中央婦人学級の手作りの料理を頂きました。そのメニューは、「牛肉と枝豆のまぜご飯」、「長いもとえびの揚げ物」、「大根とさといもの煮物」等々全七品目のご馳走でした。

心のこもったおいしい料理を食べながら、交流を深めることが出来ました。

室根支部

災害支援活動から学ぶ地域づくり
―第二回室根地区　地域づくり講演会―

九月二十七日、室根保健センターにおいて室根第十九区自治会長畠山英一氏（社協理事）を講師にお迎えし、「災害支援から学ぶ地域づくり活動」と題し、第二回講演会が盛会裡に開催されました。

第十九区自治会（四十三世帯）は、気仙沼市小泉地区と「鮭の交流事業」をすすめ両地区の地域間交流をし、特色ある地域づくりと経済交流を深めております。

三月十一日の東日本大震災・大津波で小泉地区は壊滅的被害を受け、その災害支援に第十九区自治会が先頭になって津谷川全自治会が支援活動を行いましたが、中でもその会長である畠山英一氏からその活動を学びました。

☆小さなことで良いから、地区で出来ることから始める。

・自然な声掛け、あいさつ～思いやりの心。

・地区の行事に参加よびかけ～全戸参加することの意義

☆地域をあげて取り組むことの重要性

・この困難をともに考え行動する。

↓相互扶助→地域の一体感

・個人（支援者）の自己満足に終わってはならない。

・助けるのではなく、一緒に考え、被災者の心に寄り添う。

☆人格の修業の場・自分を高める機会としよう。

お互い様、今助けておけばいつか自分の時は、助けてもらえる等の「浅ましい考え」を捨てる～地域ボランティアに徹することが大切である。（支援や奉仕に見返りを求めない）

☆地域に喜んでもらえる地域活動でありたい

地域づくり活動は、政治や行政から見ると本当に小さいことだが、地域の困っている人々に喜んでもらえることが、真の福祉活動である。

この小さな地域づくり活動にこそ地域コミュニティが難しくなってきている今日には必要な活動である。

畠山英一氏の実践を踏まえた講話に多くの聴衆が熱心に聞き入っており大変有意義な講演会でした。

川崎支部

～障がい者交流事業「やまびこ教室」を開催～

十一月十日厳美町の瑞泉閣で、障がい者の交流と社会参加を目的とした「やまびこ教室」を開催しました。川崎町手をつなぐ育成会の総会も兼ねており総勢二十七名で紅葉を楽しんで来ました。

「旬の昼松花堂弁当」には松茸釜飯がつき、舌鼓を打ちながら、お風呂に入る時間がなくなるんじゃないかと心配するほど話しに花が咲きました。平日ということもあり内風呂・露天風呂ともほぼ貸切り状態で、まっ黄色な山々を眺めながら心地よい風に吹かれて、極楽を堪能しました。

地域活動団体紹介

「こんにちは民生委員です」

民生委員は「民生委員法」によって設置され、社会福祉の増進を任務としています。

厚生労働大臣が委嘱し、又、職務内容が県民や市民の生活に直接関連することから、知事や市長も重ねて委嘱状を交付しています。

その職務は

一　常に調査を行い、地域住民の生活状態を把握しておくこと。

二　援助を必要とする者を適切に援助すること。

三　必要とする福祉サービスの情報を提供すること。

四　社会福祉施設と密接に連携し、その活動を支援すること。

五　福祉事務所その他の関係行政機関の業務に協力すること。

六　その他、必要に応じて住民の福祉の増進を図る活動を行うこと。

です。

一関市社会福祉協議会も民生委員さんにはひとり暮らし高齢者の緊急時対応のため「緊急連絡カード」を整備していただいたり、日常的に高齢者宅への訪問活動（見守り）活動を行っていただいており、又、ふれあいサロンや介護予防教室の展開等と地域福祉活動に多大な支援をいただいております。

これら職務を円滑に実施するため、毎月一回定例会を行うほか、任意で部会活動を展開しています。

部会は高齢者福祉部会、青少年育成部会、生活福祉部会、母子、父子等福祉部会、障害者福祉部会であり、地域により若干構成が異なっています。

昨今は高齢化率（全人口のうち六十五才以上の者の占める割合）が急上昇してきており、一関市では既に三〇％を超えてしまいました。

社会福祉制度の設計が高齢化の進行に追い付かないため、地域課題が増大しています。

そのような中にあって、住民の福祉増進のため、民生委員さんに頑張って活動していただいています。

陸前高田市子育て支援センターへ炊出し

一関市民生児童委員協議会の青少年育成部会（一関地域、二十二人参加）は、十月二十一日に陸前高田市の子育て支援センター『あゆっこ』と療育教室『なるなるかくかく』の参加親子約五〇人に『芋の子汁』の炊き出しを行いました。

会場になった竹駒保育園は、人の背丈ほど浸水し、使用できなくなったこと、安全面を考え高台へ立て直す方針であると伺いました。又、陸前高田市内の被災状況を見て、民生委員の中には声を出せない方もいました。

炊き出しの準備の間に大正琴による演奏や童謡を一緒に唄うなど親睦を深めました。

陸前高田市の子育て支援センターの炊き出し支援は、今回が初めてとのことで、大変喜んでいただきました。

一関市子育てサロン事業

子育てサロン事業は、平成二十一年に開設し、一関、花泉、大東地域五サロンでスタートしました。平成二十二年度は地域を広げ十二サロン、平成二十三年度は十五サロンと輪がひろがってきています。

今年度は、一関全域のサロンを対象とした研修会を川崎公民館で開催し、大勢の親子さんとお世話人の方々にご参加いただきました。今後は、サロンの方々の声を聞きながら、更に充実した研修会、交流会を企画して参りたいと思います。

子育てサロンは、地域住民が主体となり就学前の子育て家庭の育児不安の解消に資するためサロンを実施することにより、参加者が互いにふれあい、仲間づくりを行う場を提供し、地域における子育て支援の機運を醸成する事を目的としています。

一関においても、少子化が懸念されておりますが、子育てを通して、もしかしたら出会うことのなかった仲間や、それを支える地域の方々とのあらたなつながりが生まれるかも知れません。

地域	サロン名
一関	いちごの会
	もぐもぐクラブ
	朋友会
	B★KIDS
	おこさまらんち
	子育てサロン「バルーン」
	子育てサロン「わ・わ・わ」
	こんこんキッズ
8	

地域	サロン名
花泉	子育てサロン「ひかた」
	子育てサロン「すくすく」
大東	子育てサロン「れっくる」
	子育てサロン「ひまわり」
千厩	なかよしサロン
東山	こにゃんこ　あそびの会
川崎	キューピーサロン
15	

～共同募金運動にご協力を～　じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金（十月一日から）

共同募金は、民間福祉事業を支援するため、社会福祉法により制度支援されている募金です。

寄付や募金活動という誰もが参加できる活動を通じて、社会福祉に対する理解を深めていただくとともに、併せて募金のご協力をお願いしているところです。

都道府県ごとに社会福祉法人の共同募金会があり、市町村には共同募金会の内部組織として、市町村共同募金委員会が設置されています。

平成十二年に社会福祉法改正により共同募金が地域福祉を推進する募金に位置づけられたことから、今後一層共同募金会と社協の連携を密にし、地域福祉事業の推進を図ってまいります。

目標額　一七、九五〇、〇〇〇円

赤い羽根共同募金は

- 地域福祉推進事業
- ふれあいサロン
- 在宅介護者リフレッシュ
- ボランティア講座
- 社協だより発行

等事業展開に一部充当しています。

歳末たすけあい運動募金（十二月一日から）

「みんなでささえあうあったかい地域づくり」をスローガンに、歳末たすけあい運動募金をお願いしています。

新たな年を迎える時期に、支援を必要とする方々に対し、地域で安心して暮らすことができるよう生活支援を中心に、助成を行ってまいります。

市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

目標額　一九、七九〇、〇〇〇円

一関第二高等学校のみなさん

愛心幼稚園のみなさん（平成22年度）

地域での暮らしを考える

五回連続講座〈共同企画〉

一関公民館、いちのせき市民活動センター、一関市社会福祉協議会の三者による共同企画も三年目を迎えました。

・第一回講座（五月）

講演「認知症」
講師　中津川病院長
　　松嶋　大氏

実践事例発表「東南アジアにおける医療活動への支援」
発表者　東山町ユネスコ協会長
　　鈴木富子氏

・第二回講座（七月）

講演「ことばの海」
講師　一関市博物館学芸主査
　　小岩弘明氏

実践事例発表「減災をめざして」
発表者　NPO法人　防災サポートいちのせき
　　理事　佐藤志行氏

・第三回講座（九月）

講演・実践事例発表とも
演題「いなか的ライフスタイルの提案」
講師　たびれっじ推進協議会
　　代表　中本忍氏

です。概要の紹介は紙面の都合により「減災をめざして」のみといたします。

尚、それぞれの抄録を発行しておりますので、ご希望の方は社会福祉協議会までお申し出下さい。

第四回講座については「社協だより」三月号に掲載予定です。

「防災サポートいちのせき」結成の目的は二つです。一つは減災活動を推進して地域防災力を高めること。二つ目は大災害時において行政を支援する活動を行うということです。

地域防災力は行政機関の力と地域住民の力で構成されています。そして住民の力が非常に大きいということを職場において感じてきたものですから消防を退職するにあたり仲間をつのってNPO法人を立ちあげたのでした。

防災は、災害対策基本法で災害の予防、応急対策、災害復旧の三本立てになっています。

「減災」は平成七年の阪神淡路大震災で生まれた概念ですが、これは災害時に発生する被害を最小限にしようということで、あらかじめ被害の発生を想定した上で、その被害を逓減化しようとするもの。災害は予測不能なかたちで発生するのですから、その被害をいかにして少なくしていくか、という取り組みが大事になってきます。危機管理の基本として私共は「悲観的に準備して、楽観的に対応する」ということを申し上げております。

要するに最悪の状態を考えてそれに対する対応を普段から準備しておく。そして、被災してしまった場合はクヨクヨしないで、いつか絶対に復興する、必ず解決するぞ、という希望を持つことが必要だということです。

次に災害に対しての心構えについて申し上げます。災害に遇った時、被害を大きくしてしまう原因の一つは知識がないということ。

二つは他人は災害に遇うかも知れないけれど、私だけは大丈夫という思いです。心理学上「正常化の偏見」と言いますが、まずこれを捨てましょう。他人に起こることは自分にも起こるのですから。

三つ目は知識があっただけでは何にもならないので、身体で行動できるしくみを作るということです。

頭脳は新皮質と旧皮質から成り立っております。知識は新皮質、行動は旧皮質が受け持っています。いざという時には新皮質の知識は無くなってしまいますので訓練によって身体に覚えこませておくということが大切になってまいります。

ここに「安全のABC」ということを書いておりますが、Aは当たり前のこと、Bはボンヤリしない。Cはチャンとすることです。

これは安全のために考えられることはすべて準備をしておくということ、先送りしないで今できることは今すぐやること、そして一度に全部のことはできませんので一つずつ積み重ねていくことが必要だということです。

災害時には自分もみんなと同じように遇う、防災知識とともに訓練も必要、そして安全のABCということを申し上げました。

皆様方の生活の安全向上にお役に立てば幸いです。

○新春特別企画

（一関地域福祉活動推進協議会共催）

日時　一月二十一日午前十時
演題「豊かさを問い直す」
　　―大震災を振り返って
講師　及川和男氏

○第五回講座

日時　二月二十五日午前十時
演題「世界遺産「平泉」」
　　―日向談義―
講師　中尊寺仏教文化研究所
　　佐々木邦世氏

2. 実践事例発表
「京津畑の地域活動」
京津畑自治会
伊東鉄郎氏

介護者の集い

在宅で、寝たきり者や障がい者等の介護にあたっている介護者を対象に、「平成二十三年度在宅介護者の集い」が十一月二十日(日)～二十一日(月)、岩手県花巻市『ホテル花巻』で開かれました。この事業は社協が主催する一泊のリフレッシュ交流事業で、レクリエーションや会食、入浴を楽しみながら日頃の疲れを癒し、気分転換してもらうことを大きな狙いとしています。今回は介護者二十四名が参加、交流を深めました。

同集いでは、『脳元気レクリエーション』と題し、手や指を動かし脳を活性化させ、唄やダンス、ゲームを行いました。「間違えた、と気付くことが脳への刺激となる」という話を受けて、参加者は間違いをおおいに楽しみ、笑顔と笑い声の絶えない時間となりました。

また、会食懇親では話も弾み、家庭での介護の様子や心境を打ち明け、交流の場となりました。

日頃の苦労話も尽きない中、初めて参加した方からは「短い介護歴のため、皆さんの話を聞いて勉強しようと緊張してきたが、こんなに楽しい時間を過ごせるとは思わなかった」との言葉をいただきました。また、何度も参加されている方からは「このような時間を持つことは大切なことだ」との声がありました。雪見風呂となった温泉にも浸かり、束の間のリフレッシュの時間となったようでした。

社協では、在宅介護者の集い（日帰り）を来年二月に予定しております。多くの方に参加していただき、情報交換、リフレッシュしていただきたいと考えています。

ひきこもりの居場所づくり

～フリースペース「ひだまり」の開設～

近年の社会問題の一つに、「ひきこもり」があります。「ひきこもり」とは、厚生労働省の定義によれば「六ヶ月以上自宅にひきこもって、会社や学校に行かず、家族以外との親密な対人関係がない状態」のことをさします。「ひきこもり」状態になる要因はさまざまで、精神疾患が影響している場合もあれば、とりたてて原因といえるものが見つからない場合もあります。

一関市では、〝フリースペース「ひだまり」〟という集いの場を開設しています。「人と接することを避けてしまう」、「家の外へ出ることができない」、など「ひきこもり」状態になっている人やその家族をサポートするものとして、一関勤労青少年ホーム（田村町三―二〇）の二階をお借りして、毎月二回（毎月第一、第三月曜日）の午後二時～四時まで開設しています。

活動内容は皆さんの希望で行っていき、ゆっくりお茶を飲んで過ごす時間も用意しています。当事者だけでなく、家族の方の参加も歓迎しています。みなさんで居心地のよい場所をつくっていきましょう。

（お問い合わせ先：一関保健所　TEL二六―一四一五(内二三七)担当：岩渕）

今月のギャラリー

ほのぼのステーションは、地域に暮らしている人たちの集いの場となっています。

創作活動をしたり、抱えている悩み事をお互いに話合ったりして過ごしています。

今回は書道サークルで活動している佐々木隆也さんの作品を紹介します。

指導に当たっているのは秋田県の小山お尚さん。

佐々木さんは「こころを白紙にして、修養と思って取り組んでいます」とのことでした。

陶芸「牛」

お問い合わせは　ほのぼのステーションまで
一関市大町四―一六
電話　〇一九一―三二―四八八九

いちのせき社協だより 第21号
（2011年12月15日発行）
編集・発行　一関市社会福祉協議会
〒021-0877　一関市城内1番36号　一関市総合福祉センター内
電話 0191-23-6020　FAX 0191-23-6024

まごころ寄附

平成23年９月から平成23年10月までに、市民の皆様からご寄附がありました。

一関支部

一関市	関水書道会展 様	70,000円

花泉支部

花泉町油島字表谷地	遠藤　常生 様	100,000円
花泉町金沢字向沢	佐々木幸雄 様	50,000円
花泉町	らば～そうる 様	12,242円

大東支部

大東町大原字中島	千葉　忠一 様	50,000円
大東町中川字新城	佐々木美和子 様	50,000円
大東町鳥海字市ノ通	及川　幸雄 様	30,000円
大東町猿沢字大畑北沢	小野寺孝雄 様	100,000円
神奈川県藤沢市 亀井野	日本大学生物資源科学部 生物環境工学科 地域環境保全学研究室 様	17,550円
大東町大原字有南田	金野　乃 様	100,000円
大東町摺沢字石倉	岩渕　宏 様	50,000円
大東町猿沢字野田前	千田ヨミ子 様	30,000円
大東町大原字板木	千葉　耕士 様	100,000円
大東町曽慶字中田	畠山　幸雄 様	50,000円
大東町摺沢字摺沢駅	金野　宏一 様	50,000円

千厩支部

千厩町千厩字町	片岡　宏子 様	100,000円
千厩町磐清水字二本松	小岩　晃雄 様	100,000円
千厩町千厩字町浦	菅原　君雄 様	100,000円
千厩町千厩字石堂	家具の小野寺 様	6,600円
千厩町千厩字前田	金野　雄 様	100,000円

東山支部

東山町長坂字羽根堀	鈴木　子郎 様	30,000円
東山町長坂字金山	小野寺貞三 様	100,000円
東山町長坂字西本町	佐藤　三五 様	50,000円
東山町松川字台	小野寺　徹 様	100,000円
東山町田河津字夏山	佐藤　鐵治 様	100,000円
東山町田河津字横沢	佐藤　篤 様	100,000円
東山町長坂字柴宿	佐藤　主 様	100,000円
東山町田河津	田河津婦人会 様	タオル100枚
東山町松川	ひまわり食堂 山崎智子・細川みき子 様	タオル50枚

室根支部

室根町折壁字愛宕	遠藤　清市 様	30,000円
室根町津谷川字中磯	熊谷　正 様	50,000円
室根町折壁字梅木	西村　賢一 様	100,000円
室根町矢越字射勢沢	田村　純一 様	50,000円
室根町津谷川字本宿	小野寺祐子 様	50,000円
室根町折壁字天神下	齋藤　正和 様	50,000円
室根町矢越字荒谷	水戸　久夫 様	30,000円

川崎支部

川崎町薄衣字上段	佐藤　哲子 様	100,000円

障害者理解を深める福祉教育

「障害者の理解」を進めるため、障害者支援プラザのピアカウンセラー（障害者相談員）の派遣を行っています。

肢体・聴覚・視覚各々のピアカウンセラーとの対話を通じ、理解を深めるように取り組みを行っています。

十一月十五～十七日は山目小学校の総合学習に対応し、肢体障害＝石川相談員は、車いす者が運転できる車輌の説明。聴覚障害＝芳賀相談員は、手話を使った挨拶について説明。視覚障害＝千葉相談員は点字や音声訳についての説明など、障害別の講話の後、児童との対話が行われました。対話や見学を通じ、子ども達は初めて障害者の日常にふれ、驚きや興味を持って学習していました。

社会福祉協議会では児童・生徒が実際に障害を持っている方々と接することで、理解と共感に基づいた障害者観を持ち、共生社会を築いてくれるものと期待し、福祉教育に取り組んでいます。

今後もピアカウンセラーの派遣を行いますので、希望の学校は、一関市ボランティアセンター又は一関障害者支援プラザ（電話23－6020）までご相談下さい。

手話を指導

ホームページに関するお問い合わせ先
社会福祉法人　一関市社会福祉協議会ホームページ
http://www.ichinoseki-shakyo.com/　E-mail：info @ichinoseki-shakyo.com